

2011年3月11日（金）の東日本大震災に対して、発生1週間後以降に行ったボランティア活動について報告する。

1. 福島県南相馬市

1. 1. 日時

2011年3月22日（火）～3月24日（木）

1. 2. 経緯

2011年3月22日（火）12時頃、民主党の災害ボランティア対策室が立ち上がり、動き始め、東北地方へ現地入りして動き始めるので、責任者の高橋昭一衆議院議員に会いに来ないかとのことで、友人の岡田康裕衆議院議員から電話が入った（ただし、岡田議員は別担当のため関わらず）。そのため、慌てて午後から有給休暇を取ることにして、夕方に議員会館の高橋昭一事務所を訪問した。高橋昭一事務所では、マスコミへの説明に同席して、災害ボランティア対策室立ち上げの背景についての情報を得た後、災害ボランティア対策室の会議に出席することになった。会議は議員会館地下の会議室で行われ、机に就いたのは国会議員15人程度と自分だけと数人の秘書のみで、少し居心地の悪さも感じはしたが、隣席が青年局でずっと一緒に活動した懐かしの仲間、村井宗明衆議院議員だったこともあり、話を聞くことに専念できた。岩手・宮城・福島・茨城のそれぞれ件を担当するチームに、4～5人程度の国会議員が所属して、ボランティア活動に関わる便宜を図るための対策にあたるとのことで、それぞれのチームが一度現地入りして集めてきた情報についての報告がなされた。その後、福島県南相馬市入りするという高邑勉衆議院議員と二人で、現地入りして情報収集するとともに、現地での活動の拠点作りをするということになった。

1. 3. 日程

3月22日（火）

18時 民主党災害ボランティア対策室会議（高橋議員、村井議員、高邑議員、福田(衣)議員など、篠原）

24時 南相馬市に向けて出発

3月23日（水）

6時半 南相馬市役所着

6時45分 南相馬市長との話し合い（桜井市長、高邑議員、篠原）

7時 南相馬市災害対策本部会議（桜井市長、市役所各部署責任者、自衛隊責任者、警察責任者、消防責任者、東北電力担当者など）

7時半 南相馬市長との話し合い（桜井市長、高邑議員、篠原）

8時半 南相馬市議らとの話し合い（小川市議、水井市議ら、渡邊氏、高邑議員、篠原）

10時半 救援物資集積場（小川町体育館）訪問

11時 鹿島区保健センター訪問

12時 相馬市役所訪問

13時 相馬社会福祉協議会ボランティアセンター訪問

14時 南相馬市議らとの話し合い（小川市議、水井市議など、渡邊氏、高邑議員、篠原）

15時 南相馬市災害対策本部会議（桜井市長、市役所各部署責任者、自衛隊責任者、警察責任者、消防責任者、東北電力担当者など）

- 16時 南相馬市長との話し合い
- 18時 南相馬市議らとの話し合い（小川市議，水井市議など，渡邊氏，高邑議員，篠原）

3月24日（木）

- 7時 南相馬市災害対策本部会議（桜井市長，市役所各部署責任者，自衛隊責任者，警察責任者，消防責任者，東北電力担当者など）
- 7時半 南相馬市長との話し合い（桜井市長，高邑議員，篠原）
- 8時半 南相馬市原町商工会議所青年部と話し（只野さん，高邑議員，篠原）
- 9時 南相馬市ふりど循環器病院訪問
- 9時半 被災地（よっしーランド前）に行く
- 11時 相馬市内、南相馬市民避難所（旧相馬女子高）訪問
- 12時 相馬市内、相馬市民避難所（はまなす館）訪問
- 13時 相馬市内、南相馬市救援物資集積場（卸売市場）訪問
- 14時 飯館村長との話し合い（菅野村長，門馬副村長，高邑議員，篠原）
- 16時 南相馬市長との話し合い（桜井市長，高邑議員，篠原）
- 16時半 南相馬市出発，20 km 圏内の視察
- 21時 首相官邸、菅首相と立ち話（高邑議員）
芝首相補佐官と話し合い（芝首相補佐官，高邑議員，篠原）

1. 4. 持って行ったもの

基本的に今回は情報収集のため、自分たちの分の食料等のみを持って行った。

自転車（ロードレーサー），パンク修理セット，α米 10 食分，ラーメン 3 袋，パスタ 300g，パスタの素 2 袋，パン 10 個，缶詰 4 缶，水 6 L，バナナ 4 房，コンロ，燃料，鍋，コップ，箸，寝袋，銀マット，ヘルメット，皮手袋，アーミーナイフ，懐中電灯，デジタルカメラ，携帯充電器など



1. 5. 情報収集の場

・南相馬市災害対策本部会議

電気・ガス・水道の復旧状況の報告や、遺体発見数の報告、水抜きや道路工事などの本日の活動・工事予定、ガソリンの入荷量の情報、避難所の状況、学童への教育問題、避難先地域での対応、不審者情報、放射線についての情報など様々な事案について、各担当



者が報告する。毎朝 7 時からと昼の 15 時から、毎回 30 分～45 分程度開催していた（昼にイベントがある際は 18 時から）。東電と原子力保安院の担当者はおらず（東北電力は初日からいた）。

・市長や村長、市議らとの話し合い

市としての要望や市の今後の方針を聞き、要望について官邸や党に報告して、対応をお願いした。マスコミ、東電や県，国に対しての不満が非常に大きい。市議との話し合いでは、生活についての問題や農産物についての補償などの、より市民に近い観点での要望などについて情報を得ることができた。



・避難所や物資集積所の視察

避難されている方の生の声や、ライフライン・環境などについて調べ、課題に対して協力できる点を探し、提案等を行った。複数の避難所間における違いについても見た。南相馬市内外の集積場の現状と、物資の流れについての確認を行った。現状では、物資と市民に取りに来ていただいている状況なので、ガソリンが少ないためなかなか取りに来られない人も多いらしい。



1. 6. 被災地についての情報（対策本部会議、市長、村長、市職員、市議等との会合等で把握）

・被災状況

21日6時現在 死者217人、行方不明者1260人、家屋倒壊1800戸

24日6時現在 死者243人、行方不明者1230人、家屋倒壊1800戸

毎日、自衛隊（12旅団第13連隊）と警察、消防が行方不明者の捜索を行っている。ただ、遺体が見つかって、重機が入れない場所など、回収もままならない場所も多い。23日は、老人保健施設（よっしーらんど）周辺に重機を入れての捜索活動。小高区には、水の中を通過して入る必要もあり、捜索作業は難航している。また、身元が分からない遺体も多く、24日夕方の時点で、245体の遺体のうち40体以上が身元確認できておらず、できるだけ火葬を遅らせてはいるが、遺体安置所が足りなくなる可能性もあり、遺体の腐敗もあることから、間に合わない場合は特徴を詳細に撮影した上で、火葬している（火葬は一日に15体）。遺体安置所は、23日時点では高校の体育館が使用されていたが、異臭が強く、学校再開後の体区間としての使用に支障が大きい可能性があるらしい。警察はこれまで大阪府警等が入っており、24日から神奈川県警と熊本県警と交代するらしく、全国の警察が交代しながら入っている模様である。

・ライフラインの復旧状況

電気は、一部の地域を除き復旧が進んでいる。東北電力は、地震翌日から人が入って復旧作業を開始しており、23日時点では原町区中央部に対する作業を継続中であった。ガスについては、プロパンガス18,000世帯については2本設置して1本ずつ切り替えしており、地震前に取り替えたばかりのため、4月中旬までは持つと思われる。都市ガス3000世帯については4月中旬までの在庫はあるが、ラインに問題がある場合があり、状況調査を進めていた。水道は、基本的に問題ないところが多いが、浄水場での放射線の蛇口濃度が23日に220ベクレルを超えたことから、23日に小児を対象にして保健センターで水の配布を行い（5500本を用意）、101名に配布が行われた。

・被災地復旧作業

自衛隊担当しており、重機を使って、原町区の津波被災地の復旧作業を行っている。小高区については、道の復旧もまだできていない。重機を入れて、今後作業開始予定である。24日から、海水がかなりたまっている地点（矢沢干拓地）に対して、海岸から掘削して水路を掘り、ポンプでくみ出し作業を開始する。

・被災者の避難

南相馬市における避難にはいくつかの段階があった。最初に、地震と津波により被災した人々が小学校や地域の保健センターなどに避難所に避難された。次に、12日の原発から20km圏内からの避難指示により、小高区の区民12,800人が圏外に退避し、その一部が原町第一小学校などの約20km

圏外の小中学校等に避難した。その後、20km 圏外 30km 圏内の市民への屋内退避指示が出たため、さらに相馬市内の旧相馬女子高に避難した（つまり、これまでに二度避難所を移動されている方も多くいる）。相馬女子高では、一時 1000 人近くの避難者を受け入れていたが、400 人程度まで減り、24 日現在で 540 人程度が生活している。また、原町第一小学校にも、74 名の方が避難されている。南相馬市としては、20km 圏外 30km 圏内の市民へもこれまでに自主避難を呼び掛けてきており、応じた人の自家用車にはガソリンの満タン給油もしくはバスでの県外への移送を行ってきた。福島県内への避難は、南相馬市民 72,000 人の内、11,000 人程度である。バスでの圏外移送を希望された方は全員移送を完了し、新潟県や山形県、群馬県、長野県などに 4,700 人が移動した。移送先の避難所は、場所によってはホテルや旅館であり、場所によっては体育館であるため、不公平を避けるために、移送前にはどこに移送するかの情報は出さずに移送を行ってきた。24 日に 1,000 人の追加避難を企画し、40 台のバスで草津温泉のホテルに移送予定であったが、応募は 166 人に留まった。遠方へ離れることを希望される方はこれまでに避難しており、残っておられる方の多くが近くに留まりたいと希望している。相馬女子高に避難して、毎日南相馬市の職場まで 20km を通勤されている方もいらっしゃる。自主避難をされて、どこに行かれたか把握できない方も多く、24 日までのところ、小高区民 12,800 人のうち、3,957 名（31%）の所在が確認されているのみである。

原発から 30 km 圏外の相馬市では、地震と津波で 2,000 人程度が避難をしていた。原発関連に関しては、分からないとのこと。原発から 40 km 離れている地域が大半の飯館村では、避難所で最初 1,200 人を受け入れたが、徐々に南相馬市などに戻った。19 日、20 日に飯館村から 500 人が鹿沼へ避難したが、そのうち 150 名は南相馬市民だった。現在も、友人宅などに、南相馬市民が数百人単位で避難していると考えられる。飯館村の人口は 6,200 人だが、震災後一時 3,000 人程度に減少し、24 日現在では一部戻ってきているために、推定 4,000 人ほどだろうとのこと。

また、原発から 20km 圏内に入っている地域においても、40 名弱の方が残られており、市職員や自衛隊が何度か避難するように説得に行ったが、説得に応じてもらえていない。住み慣れた家を離れたくないことと、津波の被害にあっていない家に住んでいるので電気・水道・ガスが使える生活に支障がないということが理由だとのこと。

・在宅要援護者確認作業

自衛隊千葉第一空挺団が、全戸ローラー訪問し、自治体保有の要援護者リストに追加する要援護者のリストを作成していた。空挺団が本業務を担っている理由は、非常時の避難を請け負うことになるためである。要援護者がいた場合の確認項目としては、・自主避難の意思があるかどうか、・自主避難できるかどうか、・症状の状態について、・座ることができるかどうか、・介護する人がいるかどうか、・緊急性があるかどうかであり、その他特記事項として、不足している物資についての質問もしていた。23 日時点で 40%、24 日時点で 60%の家を訪問しており、85 名の動けない方がいることを把握した。

・物資等の状況

ガソリン不足が深刻。灯油や軽油は 22 日から入り始めており、23 日に配布方法について検討し、24 日から小学校単位で配布を始めた。ガソリンについては 24 日に緊急車両向けに配布を始めた。相馬氏のガソリンスタンドは、1 km 以上の行列をなしている場合もあるが、ガソリンが入っているところもある（多くは灯油のみ）。30 km 圏内に入ることを避けるために、どこの企業も持ってきてくれず、ガソリンも、全て市外にローリーを出してこちらから取りに行くことが必要である。スーパーやコンビニなどは、24 日時点まで南相馬市内で空いていなが、相馬市内では、24 日や 25 日から数店舗で

営業を再開・再開予定であった。食料や生活物資などの救援物資は、南相馬市中央部が 30km 圏内であることから、圏外である相馬市の総合卸売市場に届くことになっており、そこからは、契約している日通が市内の小川町体育館まで運びこんでいる。24 日現在までは、おにぎりやパンなどの足の速い物質のみを市内に運んで配っている。配給は、市役所横にある小川町体育館まで市民に取りに来てもらい、そこで米や生活物資などを渡している。取りに来ることのできない、要援護者は、上記の調査で抽出した上で、福祉課から必要物資の配達を行うことにしているが、24 日現在では緊急性のある家庭にしか配給できておらず、26 日以降、社会福祉協議会で配達をしていく。

相馬市には、相馬市長の顔が広いことを活用して、全国から物資が大量に入っている。入ってくる物資が非常に多いため、荷受け場所と出荷場所を異なる場所にし、渋滞が解消したらしい。一部は、南相馬市にも譲ってくれているらしい。相馬市では 23 日に、区長会を通して、一家庭 5kg のコメを配布した。相馬市でも、ガソリン不足は深刻だった。

飯館村では、24 日現在で、配布する水の残りが 3,4 日分になっていた。25 日に東京の米軍基地から 100 t の水が入る予定だったのだが、23 日に東京での水道水の放射線の問題が起こり、キャンセルが入った。水等の物資の配給は、地域の集会所で行っている。

・情報について

南相馬市と飯館市には、24 日時点で、国からも東電からも、情報が全く入っていなかった。東電の職員は、人を張り付けてくれとの要望に対して、全く対応がない。一度謝罪に来たが、謝罪はいらぬから情報をくれと言って返したが、それに対しても、24 日時点で対応はない。南相馬市は、原発関連の交付金等をもっていないのに被害だけを受けていることに対して、情報を一番欲しいと訴えているのに、東電が何を考えているかもわからない。東北電力は、地震翌日から入って、復旧作業を進めながら、南相馬市と常に情報を共有している。(国からの情報については、後から調べたところ、国からの窓口は一本で県に情報が下りてきていたが、県で目詰まりを起こして市や村まで下りて来ていなかった。) 県からの情報がない点については、市役所に入っていた県の職員は、地震の後すぐに県のバスで家族と共に県庁にもどって、帰ってこないため、連絡がうまくいっていない。

・マスコミ

マスコミは全く入っていなかった。そのため、記者室を市長から自由に使っていいよと提供いただいた。24 日に朝日新聞の記事が大きく出てからは、TV にも取り上げられるようになったが、基本は電話取材であり、カメラはほとんど入ってきていない。朝日新聞の記事にしても、自分の足で集めた情報はほとんどなく、桜井市長は、「僕が話した内容をそのまま記事にただけだねっ」とのこと。また、福島放送のアナウンサーは、真っ先に逃げ出して帰ってきていないらしい。

飯館村村長は、マスコミが最大値の数値のみと飯館村の名前を連呼していることに対して、かなり怒りをあらわにしていた。当然のことながら、24 日時点ではマスコミは全く飯館村には入っておらず、福島県庁で発表される内容を流すだけ。ようやく村長への電話取材が入っても、その第一声は「こういった数値が出ましたが、村長のご感想をお聞かせ下さい」だったという。

・治安

23 日の時点で、全員避難指示の出ている小高区で、盗難が発生し始めているということ。自宅に帰れないために被害の届けは少ないが、県外ナンバーのハイブリットカーや軽トラが徘徊しているのが見られたとの情報や、窓ガラスが割られているとの情報もある。警察が 20km 圏内に入るところで、検問をはってはいるが、全ての道は無理だとのことだった。警察のパトロールは、夜間市内全域を警

戒しており、日中も赤色灯をつけて回っている。23日に、警察が不法侵入で1名逮捕した。また、警察は他の業務が多すぎて十分には手が回らないのが現状である。24日からは、消防もパトロールを実施するとのこと。22日から緊急民間パトロール隊が4班結成されて、見回りが行われていた。23日夜のパトロール隊1班に聞いたところ、あやしい人2組を見つけたが、1組は親戚の家に来たが道迷っていると言い、住所と名前を聞くと口を濁して逃げていったらしい。1組はすぐに逃げられたとのことだった。高級家具や家電が盗まれているようである。

・病院について

23日の時点で産婦人科と市民病院のみが再開しており、25日から眼科が一ヶ所再開する。産婦人科においても、一般診療を受け付けている。

・畜産業・農業について

飯舘村は深刻。飼料は秋の内にラップしていたので、飼料経由ではなく大気か水経由の牛乳汚染ではないか？ただし、飯舘村の土壌や雑草のデータも、どこでいつ誰が取っていったのかが村役場には入ってきておらず、テレビやインターネットで数字を見るだけになっている。おそらく今年は野菜は売れないだろう。30km圏外でも、規制品目以外に対しても、きちんと補償をしてほしい。煙草については、JTが全部買い取をし、買い取れない場合も全て補償することになっている。国にもその対応をしてほしい。

・市役所業務について

人手が足りないので、自治体からの市役所業務のできる事務方の救援が必要。市の職員も3人亡くなられ、家族がなくなった方の数は多くて集計していない。考えずに皆働いている。来週から一週間、杉並区から職員が応援で入る。新学期に向けての教育福祉関連の業務や、他地域への避難に対する避難先業務、食糧などの配布に関する業務が最も大きい。避難先業務としては、新潟には職員を派遣して、3ヶ所を回らせている。

・今後の住居について

南相馬市は、住宅について決まっていない。相馬市では、5階建の雇用促進住宅(50戸)を開放し、民間の借り上げを120戸で開放した。23日の時点で、13世帯が決定し、4世帯が入居した。仮設住宅についても、1,000戸の建設を検討中である。

1. 7. 被災者の声

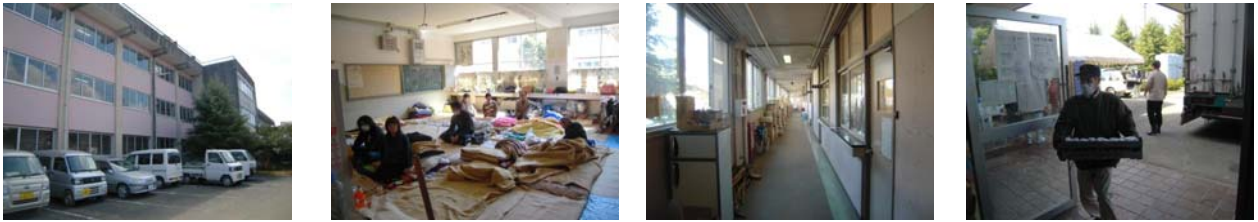
・旧相馬女子高(南相馬市民避難所)

500人程度が、教室に避難している。ストーブは1教室に1台だが寒い。

「小高区から来た。いつ帰れるか分からない不安が辛い。いつ帰れるのか教えてほしい。」

「震災後お風呂に入っていない人もいる」「歩ける人やガソリンのある人は、歩いて15分の銭湯に行ってる人もいる」「ここから南相馬市に通勤している。取引を考えると、工場を動かさないと死活問題。でも物資もないのが大変。」「うちは祖父母の二人しかなくなっていないからマシだ。笑顔で元気にやっついていかないと。周りには家族の半分以上なくなった方もいる。」「友人の家に身を寄せているが、避難所に登録しないと、相馬市では食料が手に入らないので、避難所に登録しに来た」「屋外の仮設トイレかランドのトイレしか使えないので、トイレに行くのが大変」「避難先の希望が出せないでここにきており、また、避難所間を移ることは、退避指示以外では許されない方針になっている(避難所

におられた市の担当者、後に誤解と判明)」「南相馬と相馬という異なる自治体なので連携がいろいろと難しい(避難所におられた市の担当者)」



・はまなす館(相馬市民避難所)

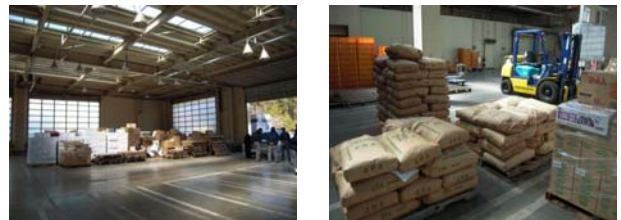
南相馬市民の相馬女子高と比べて、環境、物資ともかなり恵まれている。

「おむつ等の物資は比較的充実している。哺乳瓶洗いやベビーオイルがない」「震災後には、町でゴミを漁る人もいた」「ガソリンの列が凄すぎる」「お風呂ではないが、巡回バスで温水シャワーを浴びに行けるのがありがたい」「乳児がいるので、個室がもらえたのはありがたい」



・相馬総合卸売市場(相馬市)

南相馬市への救援物資の集積場として使われている相馬総合卸売市場を訪問した。米やカップめん、紙おむつなどが積まれていたが、まだまだスペースはあった。ここから、日通が原町の小川町体育館に運んでいる。



1. 8. 被災地状況

萱浜地区では海から 1.5 km 近く離れた地点まで、住宅地も電柱も全て何もない野原になっていた。

また、津波の来ていないところでも、道路は各所で割れたり陥没したりしており、20km 圏内では修復もされていなかった。



1. 9. 官邸への情報の連絡

現地では、常に高邑議員が官邸や党に連絡を入れて、改善点の要望を出していた。東京に戻ってきて、その足で、官邸に向かい、アポなしで情報を報告することにした。官邸は何重もの警備で、中に入っていくのにさすがに大きく緊張した。官邸の建物の入り口でばったり菅直人首相と出会い、立ち話で南相馬についての現状報告をした。その後、官邸内で、芝首相補佐官に、1時間弱に渡って現地の状況報告をした。その中で、会見前に現地には伝えて、自衛隊による退避が整然と行われ、その後官房長官からの会見だったという話を聞き、県までは退避に関する情報が行っていたことが判明した。県から市町村への情報伝達が問題だった模様。ただ、関連市町村が少ないことから、県と並行して市町村にも情報を落とすべきである。



1. 10. 個人としての対応

避難場所の確保

旧相馬女子高の惨状に、遠方でもちゃんと生活できるところに避難したいという人がいたことから、急きょ友人の鈴木裕二神奈川県議に電話し、厚木市内の休業中の温泉旅館 15 部屋 59 人分を押さえた（ただしまだ電気は通っていない）。ただし、南相馬市役所の方では、今後の管理のためにも 100 人以上、できれば 300 人以上の受け入れ場所に移したいとの要望があったことと、草津温泉などの避難場所にまだ大きな余裕があること等から、今後、個人的活動の中で困っている人に対して提供できる避難所として押さえておくことにする。

1. 11. その他気付いた点、感想等

道を走っていると、野犬の群れや単独でいる犬を多く見かけた。彼らは、車が通っても気にせずフラフラと車の前に出てくるために、何度も轢いてしまいそうになった。実際、車に轢かれた犬も何度か見かけた。国の避難マニュアルには、犬は繋いだまま、あるだけ全ての餌をおいて家を出るようにと書かれている。私も犬を飼っていた経験があることから、犬を飼っている人としては、いつ帰ってこられるか分からない中では鎖を離して家を出たくなるだろう。ただ、鎖を放して家を出ると、犬たちは野犬となり、人を襲うようになるかもしれない（実際、後日犬に襲われたという方にも出会った。）。車に轢かれるかもしれない。動物愛護団体などが間に入って、何か工夫していい方法を見つけられればと思う。

マスコミの報道についてであるが、新潟の避難所へ避難した市民の乾杯している映像がマスコミで流れたことに対して、苦情が殺到したという。不安な怖い場所から脱出でき、一息付ければ、誰だって乾杯したくなるだろう。乾杯して大いに盛り上がり、明日への希望を大きくしてほしい。ただ、不安な地域に残らざる得ない人、劣悪な環境の避難所に残されている人、彼らとその映像を見たら、中には傷つけられる人もいだろう。マスコミは、報道に配慮して欲しいものだ。何でもかんでも流したらいいものではないと思う。

自分の仕事が第一優先でもあるため、短期間で戻ってきたが、ボランティアセンターをきちんと立ち上げるのに関わるべきだったと帰って来てから後悔。ただし、これからも、やれることをやれる限りやっっていこうと思う。夜は、渡邊県議候補の選挙事務所を使わせていただき、持って行った銀マットを敷いて寝袋で寝た。室内でも、かなり厚着をしても、明け方はかなりの寒さ、被災者の寒さを何とかできるようにもせねばと思う。